



2024年4月期 第1四半期決算短信(日本基準)(連結)

2023年9月12日

上場会社名 サトウ食品株式会社
コード番号 2923 URL <https://www.satosyokuhin.co.jp>
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 佐藤 元
問合せ先責任者 (役職名) 執行役員管理本部長 (氏名) 田辺 純
四半期報告書提出予定日 2023年9月13日
配当支払開始予定日
四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東
TEL 025-275-1100

(百万円未満切捨て)

1. 2024年4月期第1四半期の連結業績(2023年5月1日～2023年7月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年4月期第1四半期	6,919	2.8	192	27.1	298	17.8	227	20.2
2023年4月期第1四半期	6,729	12.4	264	243.8	362	151.8	285	182.0

(注) 包括利益 2024年4月期第1四半期 327百万円 (6.5%) 2023年4月期第1四半期 350百万円 (%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年4月期第1四半期	45.17	
2023年4月期第1四半期	56.60	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年4月期第1四半期	41,153	18,310	44.5
2023年4月期	39,271	18,260	46.5

(参考) 自己資本 2024年4月期第1四半期 18,310百万円 2023年4月期 18,260百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年4月期		0.00		55.00	55.00
2024年4月期					
2024年4月期(予想)		0.00		55.00	55.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 有

詳細は、本日発表の「業績予想及び配当予想に関するお知らせ」をご覧ください。

3. 2024年4月期の連結業績予想(2023年5月1日～2024年4月30日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)									
通期	41,649	5.0	2,183	3.0	2,495	4.0	1,767	4.0	350.33

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

詳細は、本日発表の「業績予想及び配当予想に関するお知らせ」をご覧ください。

注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)

2024年4月期1Q	5,075,500 株	2023年4月期	5,075,500 株
------------	-------------	----------	-------------

期末自己株式数

2024年4月期1Q	31,732 株	2023年4月期	31,732 株
------------	----------	----------	----------

期中平均株式数(四半期累計)

2024年4月期1Q	5,043,768 株	2023年4月期1Q	5,043,806 株
------------	-------------	------------	-------------

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項などについては、添付資料4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の5類移行を受け、社会・経済活動の活性化が進み、個人消費に持ち直しの動きがみられました。一方で、不安定な国際情勢による地政学リスクの影響、エネルギー価格の高止まり、人件費や物流費の上昇、金融情勢の変化や原材料価格等の高騰など、先行き不透明な状況が続いております。

食品業界においてもこうした事業環境の影響を受け、商品の値上げの波は収まらず、消費者の節約志向・低価格志向が強まり、依然として厳しい経営環境が続くものと推測されます。

このような状況のもと、当社グループは引き続き、安全・安心に重点をおいた包装米飯及び包装餅製品の安定供給、並びに適正価格での販売に努めることを基本に事業活動を推進してまいりました。具体的には、おいしさの追求はもちろんのこと、消費者の消費動向を捉えながら、拡大する商品需要に対応可能な生産体制の整備を進めるとともに、生活スタイルの変化や消費者ニーズの多様化といった市場変化に対応すべく、「米食回帰・健康維持・多様化をキーワードとした新たな食の創造」を引き続き提案し、全社一体となった営業活動に取り組むことで業績の拡大を図ってまいりました。また、包装米飯及び包装餅の通年需要の喚起を目的とした広告宣伝を継続的に実施することで、喫食機会とブランド認知の拡大に努めてまいります。今後も、「プチ贅沢」、「健康・機能性」、「タイムパフォーマンス(タイパ)志向」などの多様な消費者ニーズに応える商品価値を提案してまいります。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は、包装米飯及び包装餅製品ともに主力製品を中心に堅調に推移し、69億19百万円(前年同期比2.8%増)となりました。

利益面につきましては、販売の増加と生産性向上により収益性の改善に努めましたが、各種調達価格等の高騰を要因として、営業利益は1億92百万円(前年同期比27.1%減)、経常利益は2億98百万円(前年同期比17.8%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益は2億27百万円(前年同期比20.2%減)と、いずれも前年を下回る結果となりました。

製品分類別の販売動向

当社グループは、食品事業の単一セグメントであるため、セグメントごとの記載を省略しておりますが、製品分類別における販売の動向は以下のとおりであります。

(包装米飯製品)

包装米飯製品は、近年の働き方や暮らし方の価値観の多様化による生活スタイルの変化に伴い、「タイムパフォーマンス志向」のニーズが高まったことで、家庭内での需要が拡大し、ストック及びレンジ調理が可能なパックごはんの販売は堅調に推移しております。また、世界的な穀物の価格高騰を受け、価格が比較的安定しているコメの存在感が高まり、米食に回帰する動きが活発化しております。

これらの消費動向の変化を背景に、まとめ買いニーズへの対応や食物繊維で始めるおいしい新健康生活の提案など様々な販売促進活動により、包装米飯製品の「家庭のご飯に代わる」日常食化に引き続き取り組んでまいりました。

また、さらなる需要喚起を目的に、2023年5月から人気お笑いコンビ「オードリー」を起用し「“ふっくら釜炊き”ごはんのおいしさ」を表現した新テレビCM『「釜炊き圧トウ的」篇』を全国放映しております。

これらの取り組みとともに、1988年の発売当初より「炊きたてのおいしさ」を目指してきた「サトウのごはん」がより多くの食卓に受け入れられ、パックごはん市場で確固たるブランドを確立したこと、さらに、電子レンジ調理などの簡便、時短調理等、家庭内での調理ニーズが多様化する中で、パックごはんが備蓄食ではなく日常食というポジションに変わってきていることも、売上高が堅調に推移した要因として捉えております。

なお、昨今のエネルギー・資材価格の急激な高騰および物流費・人件費等の上昇を受けて、2023年7月1日出荷分より商品価格の改定を行っております。

その結果、包装米飯製品の売上高は58億84百万円(前年同期比3.5%増)となりました。

なお、当社は、約45億円を投じて当社のパックごはん専用工場である聖籠ファクトリー(新潟県北蒲原郡聖籠町)に新たな生産ラインを増設し、2024年の稼働時には年間4億食の生産能力を確保することで、将来的な需要拡大に対応してまいります。

(包装餅製品)

包装餅製品では、引き続き通年需要の喚起に向けたテレビCMや企画商品の販売に積極的に取り組んでおります。

まず、「プレミアムライン」、「レギュラーライン」、「トライアルライン」と、普段の生活や行動の範囲内で手を出せる高級品、いわゆる“プチ贅沢”需要にお応えする「プライムライン」の4つにセグメンテーションされた切り餅の商品ラインナップを、引き続き全国にて販売しております。

次に、「サトウの切り餅/まる餅乳酸菌プラス」において、人気アニメ「SPY×FAMILY」とコラボした特別企画商品「サトウの切り餅乳酸菌プラスSPY×FAMILYデザインパッケージ全2種」を販売し、新たな顧客層の獲得に取り組んでまいりました。

さらに、女優の芦田愛菜さんが当社グループのみが個包装に使用している酸素を吸収する「ながモチフィルム」の特徴（鮮度保持剤なしでつきたての美味しさを24か月保持）を紹介するテレビCMや、切り餅「いっぼん」のスティック形状を活かした様々な召し上がり方を消費者の皆様提案するテレビCMを継続的に放映することで、当社包装餅商品のブランド認知の向上に努めてまいりました。加えて、餅商品の喫食機会向上と新たな消費者層の獲得を目的として、人気アニメクリエイターとタイアップした動画制作等も行っておりました。

年末商材である鏡餅については、市場全体でダウンサイジング化傾向が進んでいることから、「どこでも簡単に飾れる手頃なサイズの鏡餅！」をコンセプトとし、お客様の様々なニーズにお応えするため、化粧箱入りの「サッと鏡餅」と、置き場所を選ばない「小飾り」タイプの品揃え拡充を進めてまいりました。

また、流通における取り組みとして、鏡餅を店舗で陳列する際の開封作業の軽減を目的として開発した段ボールを開封するとそのまま商品の陳列ができる「簡単！楽ちん段ボール」を引き続き採用し、取扱店の拡大に努めてまいりました。

なお、年末年始に需要が集中する鏡餅については、様々なロス削減に対する社会的な問題意識の高まりを考慮し、受注締日をこれまでより早期に設定することで、環境配慮、フードロス・資材廃棄削減という流通業界全体の課題解決に取り組むとともに、鏡餅の伝統文化継承を持続的に展開できるよう努めてまいります。

新型コロナウイルス禍を背景とした内食需要の拡大も落ち着きを見せ始めたことで、包装餅市場全体は縮小傾向にありますが、当社餅商品に関しては通年需要の喚起や、「ながモチフィルム」に代表される当社独自の強みを活かした販売提案などを積極的に行うことで、新型コロナウイルス禍以降も同水準の売上高を維持しており、特に様々な召し上がり方をご提案している「サトウの切り餅いっぼん」は、売上が拡大しております。

その結果、包装餅製品の売上高は10億31百万円（前年同期比0.6%減）となりました。

なお、昨今のエネルギー・資材費等の各種コストの上昇を受けて、2023年9月1日以降出荷する包装餅製品の価格改定を予定しております。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第1四半期連結会計期間末における流動資産は207億40百万円となり、前連結会計年度末に比べ19億66百万円増加いたしました。

これは主に原材料及び貯蔵品が9億69百万円、売掛金が7億81百万円減少したものの、商品及び製品が32億3百万円、現金及び預金が4億78百万円増加したことによるものであります。

固定資産は204億13百万円となり、前連結会計年度末に比べ84百万円減少いたしました。

これは主に投資有価証券の新規取得および保有する投資有価証券の時価総額の増加により、投資有価証券が1億76百万円増加したものの、減価償却の進行に伴い有形固定資産が1億78百万円、無形固定資産が44百万円減少したことによるものであります。

この結果、総資産は411億53百万円となり、前連結会計年度末に比べ18億81百万円増加いたしました。

(負債)

当第1四半期連結会計期間末における流動負債は118億5百万円となり、前連結会計年度末に比べ24億62百万円増加いたしました。

これは主に未払金が13億92百万円、未払法人税等が2億33百万円減少したものの、運転資金としての短期借入金が40億円、買掛金が3億37百万円増加したことによるものであります。

固定負債は110億37百万円となり、前連結会計年度末に比べ6億31百万円減少いたしました。これは主に長期借入金の減少によるものであります。

この結果、負債合計は228億42百万円となり、前連結会計年度末に比べ18億31百万円増加いたしました。

(純資産)

当第1四半期連結会計期間末における株主資本は175億68百万円となり、前連結会計年度末に比べ49百万円減少いたしました。増加要因は、親会社株主に帰属する四半期純利益2億27百万円であり、減少要因は、剰余金の配当2億77百万円でありあります。

その他の包括利益累計額は7億42百万円となり、前連結会計年度末に比べ99百万円増加いたしました。これは主に、その他有価証券評価差額金が、保有する投資有価証券の時価総額の増加により前連結会計年度末に比べ95百万円増加したことによるものであります。

この結果、純資産合計は183億10百万円となり、前連結会計年度末に比べ50百万円増加いたしました。

なお、自己資本比率は44.5%(前連結会計年度末は46.5%)となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2024年4月期の通期(2023年5月1日～2024年4月30日)の業績予想につきましては、長期化するロシア・ウクライナ情勢による原材料価格等の高止まりや、日銀金融政策に伴う金融情勢の変化により、先行きの不透明な状況が続いており、その影響額を合理的に算定することが困難であったため未定としておりましたが、当第1四半期の業績並びに現時点で入手可能な情報や予測等に基づき算定しましたので公表いたします。

なお、今後の国際情勢等の変化により、業績に与える影響が大幅に変動すると見込まれる場合には、連結業績予想の修正を適切に公表してまいります。

詳細につきましては、本日公表いたしました「業績予想及び配当予想に関するお知らせ」をご覧ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年4月30日)	当第1四半期連結会計期間 (2023年7月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,476,711	3,954,777
売掛金	7,750,616	6,969,209
商品及び製品	2,548,329	5,751,984
仕掛品	568,830	518,371
原材料及び貯蔵品	4,308,219	3,338,884
その他	128,539	213,428
貸倒引当金	△7,210	△6,500
流動資産合計	18,774,037	20,740,155
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	5,350,980	5,265,774
機械装置及び運搬具(純額)	5,910,542	5,584,139
土地	2,322,208	2,322,208
その他(純額)	1,405,756	1,638,839
有形固定資産合計	14,989,487	14,810,961
無形固定資産	752,728	708,031
投資その他の資産		
投資有価証券	1,773,981	1,950,835
投資不動産(純額)	2,374,547	2,368,094
その他	636,030	604,557
貸倒引当金	△29,050	△29,050
投資その他の資産合計	4,755,510	4,894,438
固定資産合計	20,497,727	20,413,431
資産合計	39,271,764	41,153,586

(単位:千円)

	前連結会計年度 (2023年4月30日)	当第1四半期連結会計期間 (2023年7月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	787,412	1,125,116
短期借入金	—	4,000,000
1年内返済予定の長期借入金	3,498,614	3,378,389
未払金	3,590,432	2,198,268
未払法人税等	367,779	134,102
引当金	236,187	195,969
その他	862,458	773,830
流動負債合計	9,342,884	11,805,676
固定負債		
長期借入金	10,664,158	10,030,216
引当金	61,608	63,245
退職給付に係る負債	803,939	806,910
その他	138,498	136,721
固定負債合計	11,668,204	11,037,093
負債合計	21,011,088	22,842,770
純資産の部		
株主資本		
資本金	543,775	543,775
資本剰余金	506,000	506,000
利益剰余金	16,605,843	16,556,280
自己株式	△37,844	△37,844
株主資本合計	17,617,774	17,568,211
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	648,586	744,476
退職給付に係る調整累計額	△5,685	△1,871
その他の包括利益累計額合計	642,901	742,604
純資産合計	18,260,675	18,310,815
負債純資産合計	39,271,764	41,153,586

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年5月1日 至 2022年7月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年5月1日 至 2023年7月31日)
売上高	6,729,539	6,919,250
売上原価	4,813,771	4,960,068
売上総利益	1,915,767	1,959,181
販売費及び一般管理費	1,651,043	1,766,297
営業利益	264,723	192,883
営業外収益		
受取利息	—	0
受取配当金	14,891	24,929
受取賃貸料	49,937	47,924
副産物収入	34,771	48,750
その他	33,482	29,537
営業外収益合計	133,083	151,140
営業外費用		
支払利息	8,663	16,274
賃貸費用	22,389	25,446
固定資産除却損	—	95
その他	4,091	4,166
営業外費用合計	35,145	45,981
経常利益	362,662	298,042
特別利益		
固定資産売却益	—	163
受取保険金	—	30,000
特別利益合計	—	30,163
税金等調整前四半期純利益	362,662	328,206
法人税、住民税及び事業税	67,334	116,426
法人税等調整額	9,834	△16,064
法人税等合計	77,169	100,362
四半期純利益	285,493	227,844
親会社株主に帰属する四半期純利益	285,493	227,844

四半期連結包括利益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年5月1日 至 2022年7月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年5月1日 至 2023年7月31日)
四半期純利益	285,493	227,844
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	56,255	95,890
退職給付に係る調整額	8,407	3,813
その他の包括利益合計	64,662	99,703
四半期包括利益	350,156	327,547
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	350,156	327,547
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。